

米企業決算は予想を上回る好内容



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 事前予想を上回る決算相次ぐ

S&P500種株価指数をはじめ、米国の主要株価指数が史上最高値圏で推移するなど、米国株の堅調さが目立っています。その原動力となっているのが、予想を上回る内容が相次いだ2021年Q3（7-9月期）の企業業績です。決算実績が市場予想を上回った比率を示すポジティブ・サプライズ比率は、2021年Q3決算では82.1%（11月5日までの集計値）となっており、2014年1-3月期から前四半期までの平均値である73.8%を大きく上振れる結果となっています（右上図）。

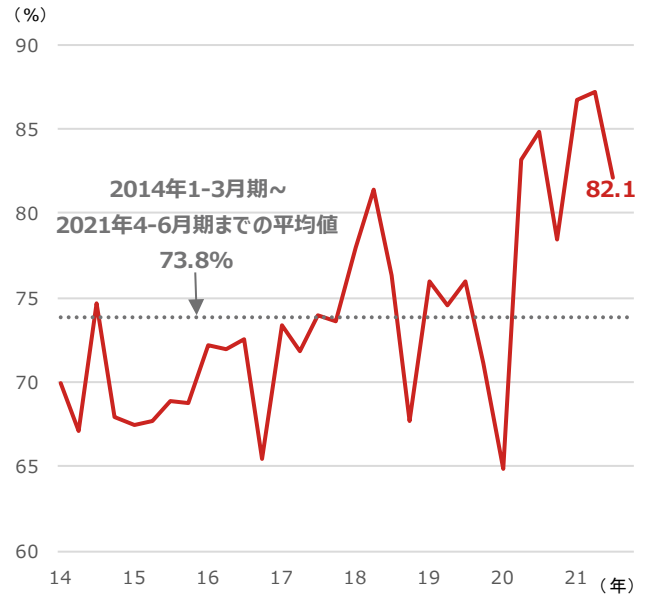
ポイント② ITやヘルスケアが上振れをけん引

S&P500構成銘柄の2021年Q3のEPS（一株当たり利益）増益率は、事前予想（決算期前算出値）では前年同期比28.4%増と見込まれていました。ただ、決算発表が佳境を迎えた11月5日までの集計値では同40.3%増まで上振れしています。

そのけん引役となったのが、米国株全体に占める利益ウェイトが高いIT（情報技術、21年Q2：21%）やヘルスケア（同：16%）です。ITのEPS（前年同期比）は「事前予想27.6%増→直近予想39.6%増」、ヘルスケアは「同16.1%増→同34.6%増」（ともに11月5日集計時点）と、好調な決算内容となっています（右下図）。

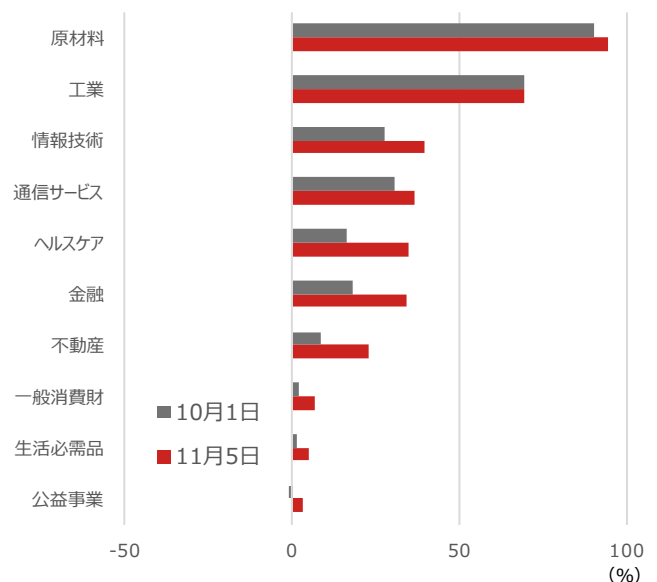
11月に入りFRB（米連邦準備制度理事会）は、テーパリング（量的金融緩和の段階的な縮小）を決定したこともあり、米国の金融政策の正常化が世界経済に与える影響を懸念する投資家は多いとみられます。しかしながら米国株は景気の影響を受けにくいとみられているITやヘルスケアの利益構成比率が高く、こうした成長株を中心に株価の上昇基調が続くと想定されます。

S&P500構成銘柄のポジティブ・サプライズ比率



期間：2014年1-3月期～2021年7-9月期（11月5日までの集計値）、四半期（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500業種別の21年Q3の予想EPS増益率2時点比較



期間：10月1日時点と11月5日時点の集計値を比較
・EPS増益率は希薄化後株式加重による前年同期比で算出（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。